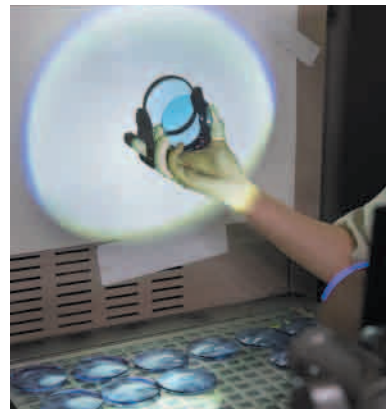
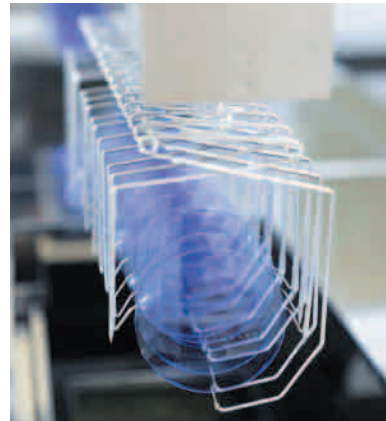


株式会社 ホプニック研究所

対象類型 表面処理
事業類型 一般型：先端設備導入計画の認定取得
主たる目的 生産性向上、技術革新

世界初の視認性向上レンズの 生産性向上を目的としたディップコート装置の導入



- 1 視認性向上レンズの低コストでの量産化を可能にしたハードコート（ディップコート）装置。
- 2 ディップコート法ではレンズをコート液に浸してコーティング処理をする。
- 3 高品質なコート処理を施された視認性向上レンズの検査作業。
- 4 視認性向上レンズを使用した眼鏡。

「イエローライトカット」で目にやさしいレンズを量産化。

技術開発型企業として、さまざまな機能性レンズを開発、製造。約10年前から580～590nmの黄色い光をカットしてまぶしさを抑え、視認性を向上させるレンズを製造している。従来はレンズ表面にスパインコート法で特殊な色素をコーティングすることで、特定の領域の光をカットする性能を持たせていたが、量産性の低さと製造コストの高さが課題となっていた。

そこで、ディップコート法でレンズにハードコート処理をする装置を導入した。化学メーカーとコート液の開発を進めるとともに、色素を含むコート液を均一に処理、硬化させるための加工条件を検討。レンズ基材との密着性や、コート剤の硬化温度、コート膜の厚みの均一性などについて、従来方法と同様

の高い品質を保ちながら、一回の加工当りの処理数は3枚から16枚に増加。一枚に要する処理時間は72秒から22.5秒に短縮できるなど、生産性が大幅に向上した。従来は200枚ごとに新規作成が必要だったコート液も、40日間の長期にわたって安定的な品質で使用できるようになった。

その結果、低コストで月産約10,000枚の製造が可能となり、令和元年秋から本格出荷を開始。高コントラストで目の疲れを抑えるレンズの市場開拓を進めていく。

注目すべき成果

オンリーワンの 視認性向上レンズの普及、 市場開拓に道筋。

生産性とコスト面の課題を解決し、本格的な販売活動が可能に。まぶしさを感じやすくなる40歳以上の眼鏡利用者に加え、目を酷使する運転手や外科医らも視野に入れ、眼精疲労削減効果のあるレンズの普及を図る。

注目すべき成果

新しいコート技術で、 より多機能なレンズ開発を。

ディップコート法のノウハウを獲得できたことは、新しいレンズ開発、製造への応用にもつながる。低コストで量産可能な特性を活かし、より多様な機能をレンズに付加して、競争力のある商品づくりを進めていく。

今後の展望

視認性向上レンズを 新しい主力商品に。

本格的な量産、販売体制が整ったことを機に、レンズメーカーや一般消費者に「視認性向上」というレンズの新しい機能の周知、普及に努め、将来的には海外展開も図りながら、新しい主力商品化を目指す。

ものづくり専門員から一言

すっきり見える「イエローライトカット」の 大きな可能性に期待。

視認性向上レンズの別名は、イエローライトカットレンズ。かければ分かる、すっきりした見え方が印象的だった。かつてブルーライトカットレンズが一世を風靡したが、視認性向上機能も潜在的ターゲット層は非常に大きい。レンズの量産化が、普及へのはずみとなることを期待する。

こんな会社です！

機能性レンズのことを知ってほしい。

人生100年時代。加齢とともに低下する身体機能をいかに持続させるかが課題ですが、視力の面で「どうやったら見えにくいものを見やすくなるか」ということを考えて開発したのが視認性向上レンズです。こうした自社以外どこにもないものを作り続けていくことが、社名に「研究所」とある当社の一番の価値と考えています。さらに近年はインターネット販売にも取り組み始めました。偏光・調光レンズなどを自分たちの手で販売することを通し、当社の開発メインの姿勢と、さまざまな機能性レンズの存在を広く知ってほしいと願っています。



偏光や調光などさまざまな機能を備えたプラスチックレンズを開発、製造。



代表取締役
高木 俊治さん



本社・工場

株式会社 ホプニック研究所

代表者：代表取締役 高木 俊治
設立：1988年（昭和63年）1月
資本金：1,000万円
従業員数：40名

事業内容：医療用プラスチックレンズ
研究、開発、製造
売上高：5億4,000万円

本社：〒916-0073 鯖江市下野田町27-46
☎ 0778-62-2629 FAX 0778-62-2250
E-mail: hopnic@hopnic.co.jp
https://hopnic.co.jp